

四組 二場面

作者は、主人公が、よく肥えた雑魚を釣り、父に喜び、ほめてもらえるといううれしさを強く表現し、心の変化を表すために、「現在 ↓ 過去 ↓ 現在」の順にしたり、河鹿をおどかしてしまいう場面を設定した。

下り藤さん

作者は、主人公が河鹿のことを思っているのに父に会えるうれしさとえびフライと言う土産の楽しみを隠しきれない様子を表現するため、河鹿をおどかしてしまいう場面を設定した。

阿部君

作者は、えびフライを食べたいといううれしさを表現したいがために、河鹿をおどかしてしまいう場面を設定した。

堀君

作者は、文の構成が上手だ。一場面で主人公が気を遣っていたはずの河鹿を怒鳴って驚かす場面を設定したのは、大きな雑魚が釣れて父親に喜んでもらえるというれ

がっている主人公の気持ち表現したり、過去の話から現実へ戻すためのキーワードになっていた。だから、わざと河鹿をおどかしてしまいう場面を設定した。

古沢君

作者は、主人公が河鹿をおどかさないようにしていたのに父に会えるうれしさや雑魚の大きさ、新鮮さがうれしくて大声を出したことを強調したくて、河鹿をおどかしてしまいう場面を設定した。

杉山君

作者は、最初はあるなにも河鹿に気を遣っていたのに、今では無意識のうちに大声で怒鳴りつけているということから、うれしい感情を抑えきれないことを読者に分かってもらうために、河鹿をおどかしてしまいう場面を設定した。

村瀬安紀さん

